

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10)平成27年度:32.

糖尿病網膜症の発症が患者の糖尿病管理や生活管理に与える影響

長澤 圭次

糖尿病網膜症の発症が患者の糖尿病管理や生活管理に与える影響

旭川医科大学病院 8階東ナースステーション ○長澤圭次

【目的】

糖尿病網膜症を発症し手術を要する状態となった患者が、糖尿病やその管理についてどのような気持ちを持っているか、あるいは失明するかもしれないという脅威は糖尿病の管理や生活管理に影響するのかを明らかにする。

【方法】

研究参加の同意が得られた患者1名を対象に面接を行い、糖尿病やその管理について語られた文脈を分析の単位として1コードとし、カテゴリー化した。

【結果】

視力の低下を自覚し、糖尿病網膜症の宣告から手術を受けて入院生活を送る中で、患者は【自尊感情・後悔】【視力が回復しないことへの落胆】【手術を受けて良かったこと】【失明に対する気持ち】【糖尿病に対する認識の変化】【行動変容への決意】などの思いを抱いていた。

【考察】

患者は、糖尿病管理の悪化によって引き起こるかもしれない失明の危機を脅威に感じていた。同時に、生活管理をすることで得られる視力回復というプラス面は行動変容への決意に繋がっていた。

また、行動変容を促し、その後の生活を維持するためには、行動変容した先にある発達課題の達成に向けた希望を持てるように支援することが必要であると考えられる。

【結論】

糖尿病網膜症の発症と手術に伴う入院は、今までの生活管理のあり方を振り返り、行動変容する機会となるので、行動変容の先にある生活に前向きな希望を抱けるよう支援することが重要である。